

台湾の多様な入学者選抜の特徴

——学力保証の観点から——

小川 佳万（広島大学），小野寺 香（奈良女子大学），石井 佳奈子（広島大学）

台湾では 2000 年代以降に大学入学者選抜方法の多様化が進み、大学入学者の約 60%が、全国型の学力筆記試験の成績に加えて募集単位が独自に定める方法によって選抜されている。本稿は、そのうち「個人申請選抜」に焦点をあわせ、学力保証の仕組みについて検討した。その結果、多くの募集単位は全国型の学力筆記試験の成績を二段階選抜の各段階において活用していること、第二段階の評価全体に占めるその割合は規定の範囲内で高く設定されていることが確認された。また、受験者に提出を求める資料については、受験者自身が作成するものであっても高級中学教員による確認が求められ、高級中学による当該受験者の学力に関する評価を入学者選抜において用いていることが確認された。

キーワード：台湾，大学入学者選抜，個人申請選抜，学力保証

1 はじめに

近年、日本の大学入学者選抜では、総合型選抜の割合が増加しており（国立・公立・私立大学を含む大学全体でみると総合型選抜の割合は 2020 年度には 13.4%、2022 年度には 19.3%）、そこでは受験者の学力を多面的に評価するべく、各大学は様々な方法によって入学者を選抜している（文部科学省, 2023）。

それは、多様な資質をもつ受験者を評価するために望ましいとされるが、その前提に学力の保証があることは言うまでもない。例えば、大学全体における総合型選抜の割合の増加の背景の 1 つとして、国立大学におけるその増加があるが、国立大学協会は「確かな学力とともに多様な資質を持った高等学校・高等専門学校卒業者を受け入れる」ため、多面的な評価が有効であるとしている（国立大学協会, 2015）。このように、総合型選抜は受験者の多様性を尊重するが、その前提として大学入学者の学力保証があることが確認されている。また、総合型選抜に相当する、従前よりなされてきた多様な選抜方法を伴う入試には、しばしば「学力不問」入試と揶揄される場合もあったが、これもまた前提となるはずの学力保証が不十分であるという課題を指摘するものであった。

ところで、このように大学入学者選抜制度において、募集単位ごとに様々な方法によってなされる選抜が特に 2000 年代に導入されてきたのは日本だけでなく、中国、韓国、台湾の東アジアの国・地域で共通する。各国・地域では、全国型の学力筆記試験の成績を積極的に用いる一般選抜に加え、大学が独自に選抜の対象や方法、評価基準を定める独自選抜を導入しており、

それによって選抜方法が多様化してきている（石井, 2020）。

台湾でも、特に 2000 年代からそうした独自選抜が制度化され（具体的には「個人申請選抜」および「学校推薦選抜」。詳細は後述）、2023 年において当該選抜を経て大学へ入学する者の割合は入学者全体の約 60%を占める（行政院, 2024）。

本稿は、台湾を対象として、独自選抜において選抜方法が多様化するなかで入学者の学力を保証する仕組みを明らかにする。その重要性は、上記の通り日本でも認識されており、台湾を事例にそれを明らかにすることによって示唆が得られると考えられる。

2 台湾の大学入学者選抜制度

2.1 大学入学者選抜制度の概要

台湾の大学入学者選抜制度は主に 3 種類の選抜によって構成される。以下、それぞれの概要について整理する（大學招生委員會聯合會, 2024a）。

1 つ目は「筆記試験（考試分發）選抜」である。筆記試験による客観性を重んじ、全国型の学力筆記試験の点数に基づき選抜を行うものである。

2 つ目は「個人申請（申請入學）選抜」である。受験者の適性も勘案し、多様な観点から優れた受験者を選抜するための方法を募集単位が決定する。これは社会的弱者の受験機会の保障に貢献することもねらいとされている。

3 つ目は「学校推薦（繁星推薦）選抜」である。進学機会の地域間格差是正を目的として、各高級中学（後期中等教育段階に相当）に少数の定員を予め割り

振るものである。入学者選抜の方法は上記の「個人申請選抜」と同様、各募集単位が決定している。

これら 3 つの大学入学者選抜による入学者の比率の推移を示したのが図 1 である。2000 年代は「筆記試験選抜」による大学入学者の割合が多かった（2008 年には 8 万 1,409 人（全体の 74.1%））。しかし 2010 年代に入ると特に「個人申請選抜」による入学者の割合が大きくなってきた（2022 年には「個人申請選抜」4 万 6,875 人（53.8%）, 「筆記試験選抜」2 万 5,028 人（28.7%））。

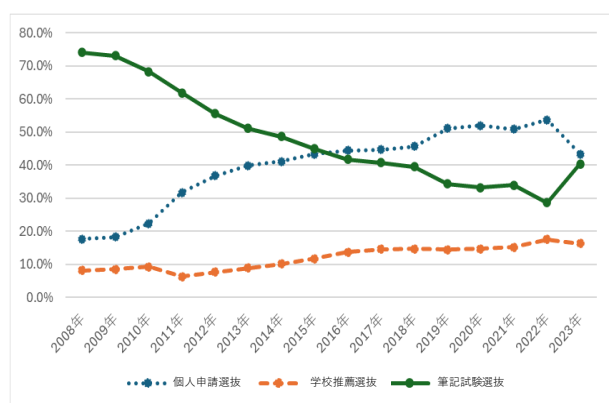


図 1 大学入学者選抜別にみる入学者比率の推移
出所) 行政院 (2024). 「大學校院招生錄取人數」
https://www.gender.gov.tw/gecodb/Stat_Statistics_Query.aspx?sn=CTE1CnibG849cP2W53tlqQ%40%40&statsn=IPnr9OiDJ2IebZpSRzggCQ%40%40&d=m9ww9odNZAz2Rc5Ooj%24wIQ%40%40 (2024 年 12 月 22 日).

このように「個人申請選抜」の占める割合が増加するなか、各募集単位で実施される選抜方法の種類や評価の比重等に多様性が認められるようになってきた（南部, 2016）。「個人申請選抜」は、募集単位の要求と受験者の適性が合致する、すなわち相互選択の成立を重視した選抜でもあり、ここでの「適性」は学業成績に限らず、受験者の関心や経験なども含まれる。なお受験者は、最大 6 つの募集単位へ出願が可能である。

「個人申請選抜」は例えば、面接試験、筆記試験、資料審査、実技等、多様な方法で入学者を選抜するが（日暮・石井, 2015）、それらに加えて必ず全国型の学力筆記試験である「学科能力試験（学科能力測驗）」の成績を選抜基準として利用する必要がある（詳細は後述）。このように台湾では選抜方法が多様化するなかでも、全国型の学力筆記試験の優位性が維持され（石井, 2020）、先行研究では、それを選抜方法の多様化における学力保証のメカニズムの 1 つとして考察

している。

日暮・石井 (2015) は、「個人申請選抜」による入学者の大学入学後の成績は、「筆記試験選抜」による入学者よりも良好の傾向にあることを指摘したうえで、その理由の 1 つとして、「学科能力試験」の成績を選抜基準として用いることで受験者の基礎学力が保証されると指摘しており、有益な示唆が得られる。

本稿では、日暮・石井 (2015) に基づき、学力を「後期中等教育段階の学校教育をとおして身に付けるべき基礎的知識・技能」としてとらえ、大学は入学者選抜において学力保証メカニズムをいかに機能させているかについて、次の 2 点から明らかにする。

まず、大学が「個人申請選抜」において「学科能力試験」の成績をいかに利用しているかについて整理する。規定により、「個人申請選抜」において大学の各募集単位は同試験の成績を利用する必要があるなかで（詳細は後述）、その利用傾向を把握することによって、入学者選抜における学力保証メカニズムの機能を明らかにすることができる。

次に、受験者が大学に提出する資料について整理する。既述の通り、一般に「個人申請選抜」の選抜方法には「資料審査」も含まれ、その原則の 1 つとして、各大学は資料によって受験者の基礎学力を評価することがあげられている（高等教育司, 2021）。つまり、資料も学力保証を目的として選抜で用いることが想定されている。そのため、大学がどのような資料の提出を求めるかを整理することは、学力保証メカニズムの機能について明らかにすることにつながる。

その方法としては、「大学独自選抜委員会（大学甄選入学委員会）」が毎年公開し、受験者が受験科目や要提出の資料を確認することができる Web サイトに掲載された各募集単位の入学者選抜に関する情報を整理し考察する¹⁾。

調査対象は、「個人申請選抜」を実施する商業・管理学系（「学系」は日本の大学の学科に相当する）および工学系とする。教育部 (2023) によると、2022-2023 学年度において商業・管理学系の学生数は 14 万 9,866 人（17.5%）、工学系（工程及工程業學門）は 14 万 8,656 人（17.4%）であり、それぞれ文系・理系で最大の在学生数であるため、本稿ではそれぞれの代表として 2 学系に着目する。具体的には、「個人申請選抜」を実施する大学 66 校のうち、商業・管理学系に該当する 48 大学 75 学系と、工学系に該当する 44 大学 99 学系を対象とする。なお、それらを設置者別にみると、国立大学が 26 校（91 学系）、私立大学 26 大学（83 学系）である（「国立」は台湾の表記に従

った)。

また、2024年3月に台北市内の進学校の1つである公立高級中学の進学指導担当教職員へ行った聞き取り調査の結果も、考察のさいに用いる²⁾。

2.2 大学入試制度の多元化における「学科能力試験」

2.2.1 「学科能力試験」の導入

2000年代以降、大学入学者選抜機会の複数化や選抜方法の多様化等を実現すべく、「多元化」をキーワードとして台湾の大学入試改革はなされてきた。その経緯は次の通りである。

第二次世界大戦直後は、各大学が独自に入学試験を実施していたが、試験を実施する大学側の負担や、受験者(特に複数大学を受験する者)の負担が大きいこと等によって、複数の大学による連合統一試験(「聯考」)が実施されるようになった(奏, 2004)。連合統一試験は、その時間や問題が統一されているため選抜の公平性が評価されてきたが、いつぼうで受験競争の激化に伴い、その課題として、試験制度の硬直化、画一的な答案方式、大学間の過剰な序列化が指摘された(教育部, 2002)。

その改善も含め、次の3つの目標をかかげて大学入学者選抜制度の「多元化」が進められた。1つ目は、多様な入学者選抜の機会を提供することで、受験者やその保護者による選択を尊重し、社会的弱者への進学機会を保障することである。2つ目は、それまで大学が選抜に関与することが少なかったことを受け、大学による入学者選抜の自主性を尊重することで大学の特色等を強調することである。3つ目は、学校教育において画一的で過度な受験対策を減少させることであつた。

なお、1994年には大学教育を受けるのに必要な基礎学力を受験者が備えているかを検査する「学科能力試験」が導入された(南部, 2016)。そのさい、基本的な知識を統合し、様々な文脈における問題解決能力を測ることや、読解力、図表の解釈力、根拠の活用力、論理的推論力、分析力、説明力等を測ることを目的として試験問題が構成された(大學入學考試中心, 2024a)。

「大学学生募集委員会連合会(大學招生委員會聯合會)」による募集規定によると、「個人申請選抜」において各大学の募集単位は、受験者に対して「学科能力試験」の受験を少なくとも1科目は課さなくてはならない。また、最大4科目を指定して、受験を課すことが可能である(大學招生委員會聯合會, 2024b)。

ただし、「個人申請選抜」の趣旨である多様な観点

による選抜を妨げないために、選抜総得点に対する「学科能力試験」の得点の比率は50%以内にとどめることも規定されている(大學招生委員會聯合會, 2024b)。

2.2.2 「学科能力試験」の科目と成績

受験者の基礎学力を測る「学科能力試験」について、以下で整理する³⁾。

まず「学科能力試験」は、毎年1月下旬から2月初めに実施され、基本的にすべての大学進学希望者はそれを受験する必要がある。試験は「大学入学試験センター(大學入學考試中心)」により実施され、試験問題は教育部が定める高級中学の教育課程の必修範囲から出題される。試験教科は「国語(國文)」「英語(英文)」「数学A」「数学B」「社会」⁴⁾「自然」⁵⁾である。

「学科能力試験」の結果は、2月中旬に受験者に通知される。そのさい、結果は素点ではなく、科目ごとに16段階(0~15:15が最高段階)で相対的な位置、すなわち等級(原語:級分)で示される。

さらに成績表には、もう1つの指標として、各科目の成績を5段階(「頂標」,「前標」,「均標」,「後標」,「底標」)で示した評価も記される。例えば、「頂標」の場合は上位12%以上の等級の受験者が該当する。同様に、「前標」は上位25%、「均標」は上位50%、「後標」は上位75%、「底標」は上位88%となる。これら15段階の級と5段階の標の対応は固定化されておらず、受験者の成績の分布状況によって変化する。

なお、「個人申請選抜」で主に用いられるのは後者の5段階の標の成績であり、各募集単位が要求する水準を各科目において満たしているか否かが可否に影響を与える。

3 「個人申請選抜」における「学科能力試験」

以下では、「個人申請選抜」での「学科能力試験」の成績の利用状況を整理する。各大学の募集単位は、「個人申請選抜」の第一段階では「学科能力試験」の成績を用いて、第二段階では各募集単位が定める方法により選抜する。表1は、「個人申請選抜」における評価について、国立台湾大学の機械工学系と情報管理学系の例を示したものである。

まず、表1から、両学系ともに第一段階において「学科能力試験」の成績について、5段階の標を用いて各科目の「最低要件」を規定していることが確認できる。試験に関する情報の透明性に高い配慮が払われ

る台湾では、選抜に関する詳細情報が公表されており、これにより、受験者に対して求める学力水準を明確に示すことができる（日暮・石井, 2015）。また、第二段階で適切な選抜ができるよう受験者数を調整するための「第一段階選抜倍率」も公表される。

また、選抜の第二段階でも、「学科能力試験」の成績は評価の対象とされていることが確認できる。表 1 では、情報管理学系、機械工学系ともに第二段階の評価全体に占める「学科能力試験」の成績の割合は 40%となっている。

それに加えて、各募集単位が指定する方法で選抜が行われる。表 1 の情報管理学系の場合は、資料審査および面接であり、機械工学系は資料審査および総合筆記試験が課され、それぞれ評価全体の 30%を占める。

このように、「学科能力試験」の成績は「個人申請選抜」の両段階で利用されている。第二段階でも「学科能力試験」の成績をもとに学力を評価しながら、募集単位が定める多様な方法によって受験者を総合的に評価し選抜を行っている。

なお、国立台湾大学以外の商業・管理学系と工学系の選抜方法を調査すると、「学科能力試験」の成績を、第一段階ではすべての大学が利用し、第二段階においてもほとんどの大学が利用していることが確認できた（3 大学 6 学系のみ不使用でありいずれの大学も私立大学である）。

また、第二段階の評価全体に占める「学科能力試験」

の成績の割合をみると（表 2），商業・管理学系は 31～40%と設定している学系が 23 学系と最も多く、次点が 21～30%（14 学系），41～50%（14 学系）であったのに対して、工学系は 41～50%と設定している学系が 39 学系と最も多く、次点は 31～40%（27 学系）であった。上記の通り、規定によって、「個人申請選抜」における総得点に占める「学科能力試験」の得点の比率は 50%以内と定められている。表 2 より、同規定の範囲内で高い比率がおかれる傾向にあることを確認できる。

なお「個人申請選抜」の第二段階において「学科能力試験」が占める評価割合の平均を商業・管理学系と工学系で比較すると、工学系の方が高い傾向にある（商業・管理学系は 30.3%，工学系は 37.5%で、0.1%水準で有意差がみられた）。

表 1 「個人申請選抜」の評価基準の例

第一段階 「学科能力試験」 「英語リスニング試験」			第二段階 成績の計算方法及び成績比率				
国立台湾大学情報管理学系							
科目	最低要件	第一段階 選抜倍率	「学科能力試験」 成績計算方法	評価に 占める割合	指定項目	標準	評価に占め る割合
国語	-	-	1.00	40%	資料審査 面接	70 点 -	30% 30%
英語	頂標	3	1.00				
数学A	頂標	3	1.00				
自然	-	-	1.00				
国英数A自	-	5	1.00				
国立台湾大学機械工学系							
科目	最低要件	第一段階 選抜倍率	「学科能力試験」 成績計算方法	評価に 占める割合	指定項目	標準	評価に占め る割合
英語	均標	3	1.00	40%	資料審査	-	30%
数学A	前標	3	2.00		総合筆記試験A	-	30%
自然	前標	3	2.00				

出所) 大學招生委員會聯合會(n.d.)「113 學年度 大學申請入學招生 校系分則查詢」

https://www.cac.edu.tw/apply113/system/ColQry_vforStu113apply_GF84ad9zx/ShowSchool.php (2024 年 12 月 19 日)。

表2 「学科能力試験」の評価割合（学系別）

	商業・管理学系	工学系
0%	3	3
1~10%	15	5
11~20%	12	9
21~30%	14	16
31~40%	23	27
41~50%	14	39
合計	75	99

出所) 大學招生委員會聯合會(n.d.)「113 學年度 大學申請入學招生 校系分則查詢」をもとに筆者作成。

また、第二段階の評価に占める「学科能力試験」成績の割合の平均について、商業・管理学系、工学系それぞれで、設置者別で比較すると（図2および図3）、いずれも私立よりも国立大学のほうが高く、「学科能力試験」による学力の確認が重視される傾向にある。

なお既述の通り、「個人申請選抜」では、各大学の募集単位は「学科能力試験」で最大4科目を指定して、受験者に課することが可能である（例えば表1の場合、情報管理学系は4科目、機械工学系は3科目の受験を求めている）。このように科目を限定する目的は、大学入試対策として全科目を学ぶのではなく、受験者の興味関心や志望学系の要求に合わせた科目の学習に集中することを目指したものであった（大學入學考試中心, 2018a）。しかし、実際には、「個人申請選抜」において受験者は最大6つの募集単位への出願が可能

なため、複数の出願に備えたり、「個人申請選抜」以外の選抜への出願の可能性等も視野に入れて、より多くの科目を受験するケースが多いとされる⁵⁾。「大学入學試験センター」は、そのウェブサイトにおいて、「学科能力試験」の受験科目数を増やして合格の可能性を高め、志望度の高い大学によって課される科目は念入りに準備しそれ以外の科目については緊張せずに受験するという受験対策を紹介している（大學入學考試中心, 2018b）。このように、大学入試制度設計上の目的と、受験対策としての受験者の行動とが必ずしも一致するとは限らないことを示唆する。また、「学科能力試験」の受験が学力保証のメカニズムの1つであるとすれば（日暮・石井, 2015）、受験戦略による受験科目の増加が学力保証に貢献している可能性も示唆される。

4 「個人申請選抜」における審査資料

既述の通り、「個人申請選抜」では、受験者を多様な観点から評価することが求められ、そのための方法の1つとして、かつ基礎学力を測るため、受験者に資料の提出を求めている。表1でいえば、2学系ともに、「個人申請選抜」の第二段階の評価に占める「資料審査」の割合は30%となっている。

なお、本稿の対象である商業・管理学系および工学系について調査すると、「個人申請選抜」の第二段階での評価に占める「資料審査」評価の割合の平均は、商業・管理学系は37.7%、工学系は39.1%と、いずれも4割程度となっている。

以下では「資料審査」の対象となる資料について、具体的に整理していく。表3は、「個人申請選抜」の第二段階で募集単位が受験者に対して提出を求めることができる資料の一覧である。各募集単位はそのうちいくつかを指定する。表3の項目1の「修学記録」は、日本の調査書に相当し、高級中学での学習状況や各科目の成績や校内順位が記載される。

項目2の「学習の成果」は、主に学校での学習を通して生徒が取り組んだ様々な課題や成果物を指し、不正の防止や信頼性の向上のため、教員による確認が必要である。

項目3の「多面的な表現」は、学校内外の生徒の活動や成績に関連し、適性や主体的な学習能力を示すもので、「個人申請選抜」導入の目的の1つである、受験者と募集単位の相互選択の実現を図る書類も含まれる。例えば「N」学習成果の説明」は、受験者が自身の経験や能力と大学入学後の学習計画を関連づけて、志望理由について論じるものである。またその根拠と

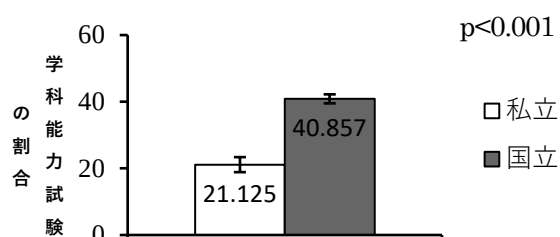


図2 設置者別学科能力試験の割合【商業・管理学系】

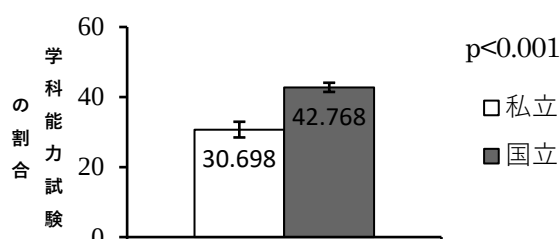


図3 設置者別学科能力試験の割合【工学系】

して、資格や経験証明書等の提出が求められる。「大学入学試験センター」は、「受験者は、審査員が多数の均質な資料の中からあなたを最適な受験者として迅速に見つけ出せるよう、学習の成果と出願する学系との関係を説明するように努める必要がある」と述べており（大学入学試験中心, 2024b）、相互選択に役立つ書類として扱われている。

表 3 「資料審査」の対象となる資料

	審査資料	具体的内容
1	修学記録	A) 修学記録
2	学習の成果	B) 書面レポート C) 作品 D) 自然科学領域の探究・実践成果 E) 社会領域の探究活動成果
3	多元的な表現	F) 高級中学での自主学習計画とその成果 G) コミュニティ活動経験 H) 幹部経験（生徒会長、学級委員長、風紀委員長等） I) ボランティア学習経験 J) コンクール記録 K) 正課外活動での成果・作品 L) 検定証明書 M) 特殊優良表現証明 N) 学習成果の説明書
4	学習過程に関する作文	O) 高級中学での学習の反省 P) 志望動機 Q) 未来の学習計画と生涯計画
5	その他	各募集単位が自由に設定

出所) 大学考試入學分發委員會 (n.d.) 「審査資料項目内容對照表」

https://www.cac.edu.tw/apply113/system/ColQry_vforStu113/apply_GF84ad9zx/html/Apply_ReviewData.pdf (2024 年 4 月 10 日)。

項目 4 の「学習過程に関する作文」は、高級中学 3 年時に学校での学習経験を中心にして受験者本人が作成する作文である。

なお、「個人申請選抜」で求める審査資料として、例えば、国立台湾大学情報管理学系では、修学記録(A)、学習の成果(B)、多元的な表現(F, J, M, N)、学習過程に関する作文(O, P, Q)、その他（個人資料表、自伝、審査に有利な資料の証明書）をあげている。

また機械工学系では、修学記録(A)、学習の成果(B, D)、多元的な表現(G, H, L, M, N)、学習過程に関する作文(P)、の提出を受験者に求めている（大学甄選入学委員会, 2024）。このように「個人申請選抜」では、募集単位によって様々な資料を用いて受験者の評価がなされている。

以下では各募集単位が受験者に提出を要求する資料について、その傾向を検討する。表 4 は、「個人申請選抜」を実施する工学系および商業・管理学系が提出を求める資料とその割合を調査した結果である。

表 4 提出を求める審査資料

工学系	審査資料	商業・管理学系
100.0%	A) 修学記録	98.7%
83.8%	B) 書面レポート	89.3%
65.7%	C) 作品	52.0%
66.7%	D) 自然科学領域の探究・実践成果	13.3%
2.0%	E) 社会領域の探究活動成果	32.0%
93.9%	F) 高級中学での自主学習計画とその成果	85.3%
39.4%	G) コミュニティ活動経験	61.3%
15.2%	H) 幹部経験（生徒会長、学級委員長、風紀委員長等）	36.0%
9.1%	I) ボランティア学習経験	24.0%
63.6%	J) コンクール記録	38.7%
20.2%	K) 正課外活動での成果・作品	6.7%
39.4%	L) 検定証明書	32.0%
62.6%	M) 特殊優良表現証明	49.3%
100.0%	N) 学習成果の説明書	100.0%
76.8%	O) 高級中学での学習の反省	65.3%
93.9%	P) 志望動機	90.7%
81.8%	Q) 未来の学習計画と生涯計画	85.3%
41.4%	R) 各募集単位が任意で設定	38.7%

出所) 大学招生委員會聯合會 (n.d.) 「113 學年度 大學申請入學招生 校系分則查詢」をもとに筆者作成。

まず、「A) 修学記録」は工学系で 100%、商業・管理学系で 98.7%と、ほとんどの募集単位で提出が求められている。「A) 修学記録」は日本の高等学校における調査書に相当し、各学校で作成され学業成績等が記載される。学校内での評価とはなるが、学力を確認するための重要な書類である。

また、大学によっては、受験者の学力水準を評価す

る資料として、それ以外の書類の提出を求める場合がある。本稿の調査対象においてそれが確認できるのは、国立中興大学情報管理学系および機械工学系、国立中央大学企業管理学系、国立金門大学企業管理学系である。

まず、国立中興大学情報管理学系および機械工学系では、基礎学力を測るものとして、情報管理学系は「A) 修学記録」に加えて、「B) 書面レポート」および「C) 作品」をあげている。機械工学系は、「A) 修学記録」、「B) 書面レポート」、「C) 作品」、「D) 自然科学領域の探究・実践成果」をあげている。

また、国立中央大学企業管理学系は、入学後の学修に必要な学力を確認するための資料として、「A) 修学記録」、「B) 書面レポート」、「C) 作品」「E) 社会領域の探究活動成果」をあげている。

さらに、国立金門大学企業管理学系は、基礎学力としての読解力を確認するための資料として、「A) 修学記録」、「B) 書面レポート」、「F) 高級中学での自主学習計画とその成果」をあげている。

このように、学力を評価するための書類として、高級中学が作成する「A) 修学記録」が位置付けられている。また、表 3 における項目 2 に該当する「B) 書面レポート」、「C) 作品」、「D) 自然科学領域の探究・実践成果」、「E) 社会領域の探究活動成果」といった受験者自身が作成する書類も学力を評価するために選抜で用いられているが、それらは不正を防止し信頼性を高めるために教員による確認が必要とされている。

5 おわりに

本稿では、台湾の大学入学者選抜制度において選抜方法の多様化が進むなか、大学がいかに関与し学力保証の仕組みを機能させているかを明らかにするため、「個人申請選抜」における募集単位による「学科能力試験」の成績の利用、および受験者に提出を求める「審査資料」について整理し、以下の点が明らかになった。

まず、「学科能力試験」の成績は「個人申請選抜」における二段階選抜の両段階で用いられる傾向にあり、選抜過程全体を通して基礎学力を評価する機能を有する。また、「個人申請選抜」の第二段階の評価に占める「学科能力試験」の成績の割合は、規定の範囲内で比較的高い。これにより、選抜方法の多様化が進むなかでも基礎学力の担保が目指されているといえる。

なお、各大学の募集単位が受験者に対して「学科能力試験」の受験を求めることができるのは最大 4 科目

であり、これは受験者の興味関心や志望学系の要求に合わせた科目の学習への集中を目指すという目的をもっている。しかし、受験戦略によって、実際の受験科目数はそれよりも多くなっている可能性があり、それが受験者の学力保証に貢献していることが示唆される。

次に、募集単位が受験者に提出を求める資料として学力を評価するために用いられるのは、高級中学によって作成される書類に加えて、受験者自身が作成する書類である。ただし後者は高級中学の教員による確認が必要とされる。つまり、高級中学による評価を含む資料に基づき、大学の募集単位は受験者の学力を評価している。

このように、台湾の「個人申請選抜」においては、受験者の学力を評価するため、「大学入学試験センター」によって実施される「学科能力試験」の成績や、高級中学の教員によって作成または確認された書類を用いている。なお、各募集単位が個別試験（筆記試験や口述試験等）を実施することで受験者の基礎学力を評価する例も多くみられるが（日暮・石井, 2015）、その場合も受験者の学力を評価する基準はそれらに限定されない。例えば上記の表 1 でも確認したように、面接や筆記試験を課す場合も、それ以外に「学科能力試験」の成績や、受験者から提出された資料を用いて選抜を行っている。このように、複数の観点から受験者の学力を評価する仕組みによって、受験者が画一的な受験対策に陥ることを防ぎながら学力保証を図っているが、そのなかでも「学科能力試験」成績は選抜全体を通して活用される傾向にあり、この点において全国型の学力筆記試験の優位性（石井, 2020）は維持されているといえる。

本稿は、学力保証を目的として選抜で用いられる資料について考察したが、対象としたデータの制約もあり、形式上の分類となり当該資料自体の分析にはいたらなかった。今後の課題としたい。

注

- 1) 具体的には、次の Web ページに掲載されている各大学の入試情報をもとに分析を行った。大學招生委員會聯合會(n.d.). 「113 學年度 大學申請入學招生 校系分則查詢」https://www.cac.edu.tw/apply113/system/ColQry_vforStu113apply_GF84ad9zx/ShowSchool.php(2024 年 12 月 19 日).
- 2) 聞き取り調査は 2024 年 3 月 29 日に台北市内の公立高級中学で行った。当該地域における進学校として認識されており、毎年 4 割程度が「個人申請選抜」によって大学へ進学する。
- 3) 共通試験には、「学科能力試験」以外に、「指定科目試験（指定科目考試）」「英語リスニング試験」がある。「指定

科目試験」は全国型の学力筆記試験で、毎年 7 月に「学科能力試験」同様、「大学入学試験センター」によって実施される。ただし、試験内容は「学科能力試験」と異なり、教育部が必修課程と定める範囲に加え選修課程からも出題される。受験者の学力を段階的に測定することを目的としており、「学科能力試験」よりも発展的・応用的である。

また、「英語リスニング試験」は、10 月と 12 月に実施され、試験範囲は高級中学 1・2 年生の必修課程である。そのほかに、音楽・美術・体育等に関連する募集単位の受験には、「実技試験（術科考試）」の受験も必要である。

4) 「社会」は、「歴史」「地理」「公民と社会」の 3 科目で構成されている。

5) 「自然」は、「物理」「化学」「生物」「地球科学」の 4 科目で構成されている。

謝辞

本論は中国四国教育学会「課題研究」（研究課題名：東アジアにおける大学入試改革とその公平性・公正性に関する研究）の助成を受けたものである。

参考文献

〈中国語文献〉

大学甄選入学委員会 (2024). 「113 學年度大學申請入學招生 (國立臺灣大學中國文學系)」

https://www.cac.edu.tw/apply113/system/ColQry_vforStu113apply_GF84ad9zx/html/113_001012.htm?v=1.0 (2024 年 4 月 10 日).

大學入學考試中心 (2024a). 「簡介」

<https://www.ceec.edu.tw/xmdoc/cont?xsmsid=0J018585669569761568> (2024 年 7 月 24 日).

大學入學考試中心 (2024b). 「膽大心細，自我行銷：審查資料的三個吸睛法則和三個實作項目」

<https://www.ceec.edu.tw/xcepaper/cont?xsmsid=0J066588036013658199&qunit=0J066632239507872025&sid=00046541862927543303> (2024 年 11 月 8 日).

大學入學考試中心 (2018a). 「108 學年起學測 5 科總級分走入歷史」

<https://www.ceec.edu.tw/xcepaper/cont?xsmsid=0J066588036013658199&sid=0J149642782840160236> (2024 年 12 月 22 日).

大學入學考試中 (2018b). 「我在學測應全考或選考？」

<https://www.ceec.edu.tw/xcepaper/cont?xsmsid=0J066588036013658199&qperoid=0J151503104727041623&sid=0J192578774449682960> (2024 年 11 月 8 日).

大學招生委員會聯合會 (2024a). 「多元入學方案 (111 學年度起適用)」

<https://www.jbrc.edu.tw/multi3.html> (2024 年 4 月 12 日).

大學招生委員會聯合會 (2024b). 「113 學年度大學申請入學招

生規定」

https://www.cac.edu.tw/apply113/PDF_FileGet.php?Type=s0 (2024 年 7 月 29 日).

高等教育司 (2021). 「大學「個人申請選拔」備審資料審查原則大公開 掌握「三重二不」5 原則 如願錄取理想大學校系」

https://depart.moe.edu.tw/ed2200/News_Content.aspx?n=90774906111B0527&sms=F0EAFEB716DE7FFA&s=881A20C2DC051499 (2024 年 2 月 1 日).

教育部 (2023). 「2023 年版教育統計」

https://stats.moe.gov.tw/files/ebook/Education_Statistics/112/112edu.pdf (2024 年 6 月 18 日).

教育部 (2002). 『2001 年教育改革之檢討與改進會議大會結論暨建議資料彙編』

秦夢群 (2004). 「大學多元入學制度實施與改革之研究」『教育政策論壇』7(2), 59-84.

行政院 (2024). 「大學校院招生報考人數與錄取人數」

https://www.gender.ey.gov.tw/gecodb/Stat_Statistics_Query.aspx?sn=CTE1CnibG849cP2W53t!qQ%40%40&statsn=IPnr90iDj2lebZpSRzggCQ%40%40&d=m9ww9odNZAz2Rc5Ooj%24wIQ%40%40 (2024 年 12 月 22 日).

〈日本語文献〉

石井光夫 (2020). 「東アジアの大学入試改革—多様化と『基礎学力』保証の両立は可能か」宮本友弘編『変革期の大学入試』金子書房, 165-186.

日暮トモ子・石井光夫 (2015). 「台湾の大学入試改革と学力保証」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』1, 23-35.

国立大学協会 (2015). 「国立大学の将来ビジョンに関するアクションプラン」

<https://www.janu.jp/wp/wp-content/uploads/2021/03/20150914-wnew-actionplan1.pdf> (2024 年 12 月 22 日).

南部広孝 (2016). 『東アジアの大学・大学院入学者選抜制度の比較—中国・台湾・韓国・日本—』東信堂.

文部科学省 (2023). 「大学入学者選抜の実態の把握及び分析等に関する調査研究」

https://www.mext.go.jp/content/20230417-mxt_daigakuc01-000028258_1.pdf (2024 年 2 月 3 日).